

現時点では、参加要件を満たしているとは確認することはできないものと判断した資格・検定試験

○試験名：リンガスキル Linguaskill

実施主体名：Cambridge Assessment English（ケンブリッジ大学英語検定機構）

理由：本試験は、現時点では日本国内での実施実績がなく、その基礎となる試験「BULATS」も、日本国内における高校生の受検者数のごく少数にとどまり、大学入学者選抜に活用された実績もない。このため、参加要件第4の2（「日本国内において広く高校生の受検実績や大学入学者選抜に活用された実績があること」等）を満たしているとはいえないものと判断した。

【参考】大学入試英語成績提供システム参加要件（抜粋）

第4

2 日本国内において広く高校生の受検実績や大学入学者選抜に活用された実績があること。

ただし、既に英語に係る試験の実績がある実施主体において同一試験と認められる範囲内での試験内容の変更を行う場合や、同実施主体において新たな試験を開発する場合には、運営委員会の審議により、基礎となる試験で得られた知見の活かされ方を勘案し、受検・活用実績にかかわらず参加を可能とする場合がある。

○試験名：実用英語技能検定（英検）

実施主体名：公益財団法人日本英語検定協会

理由：申込のあった5種類の試験（1級、準1級、2級、準2級、3級）で実施される「従来型」の方式については、一次試験（「書く」「読む」「聞く」）の合格者のみが二次試験（「話す」）を受検できる仕組みとなっており、一次試験不合格者は二次試験を受検できないことから、参加要件第4の3（「1回の試験で英語4技能の全てを（中略）評価するものであること」）を満たしているとはいえないと判断した。

【参考】大学入試英語成績提供システム参加要件（抜粋）

第4

3 1回の試験で英語4技能の全てを極端な偏りなく評価するものであること。

また、技能別の成績をセンターに提供することが可能であること。

ただし、4技能を極端な偏りなく評価している試験であって、テスト設計上、4技能別の成績を示すことができない場合には、4技能別の成績表示に最も近い方法で成績を提供することが可能であること。